日第3種郵便物認可)　毎月3回発行、購読料1カ月1,260円(送料・税込み)　両丹

廃仕込み」で業績伸ばす

後の木下酒造　製造量が3年連続で大幅増加

英国人杜氏迎え07年から製造

日本酒の消費量が減少し、低迷する酒造業界で業績を伸ばしている会社がある。代表銘柄の「玉川」などで知られる木下酒造㈲（本社・京丹後市久美浜町甲山、木下善人社長）だ。英国人の杜氏が始めた「山廃仕込み」の酒が好評で、全体の製造量は3年連続で前年を30%以上も上回っている。

山廃仕込みは、蔵に住みついた微生物を利用する昔ながらの酒造方法。時間がかかることや腐敗の恐れがあるため、全国でも取り入れている酒蔵は少ない。出来上がった酒にはアミノ酸が多く含まれ、味に深みがあるという。

同社で山廃仕込みに取り組むフィリップ・ハーバーさん（43）は、英語教師として1988年に来日。日本酒の魅力にひかれて91年から酒造りに携わるようになり、07年から杜氏として同社に迎え入れられた。1年目にフィリップさんが杜氏として仕込んだ酒は、08年の全国新酒鑑評会で金賞を受賞した。

山廃仕込みは、「新しい酒を造りたい」と考えた木下社長と「山廃仕込みを
いうフィリ
思いが一致
来の酒造り
07年秋から
め初年度分
リットルを
翌年度は
を16・6
増やしたが
割も上回る
たため、今
9キリット
製造量は2
年度の倍以
いる。

同社の酒
載されるな
ら注目され
引先は東京
多く、北海
からの注文
ているとい
香港にも出
木下社長
山廃仕込み
日本酒一本